

ニホンウナギ生息状況調査

曾田一志・勢村 均・石田健次・福井克也

1. 研究目的

県東部に位置する神西湖はウナギを対象とした漁業が盛んであるとともに、県内漁業権河川のウナギ放流用種苗（体重50g未満）の供給源であったが、稚魚の激減により種苗供給事業の休止を余儀なくされている。しかし、神西湖におけるウナギの知見は不足しており、資源保護方策検討のための基礎資料収集が求められている。また、県西部を流れる高津川ではウナギ放流種苗の入手が困難になっており、漁獲量への影響が懸念されている。

本年度は、神西湖および高津川水系において調査を行い、分布、生息環境等に関するデータの収集・解析を行った。

2. 研究方法

(1) 神西湖

シラスウナギ来遊量調査を月に1回、新月の大潮時に灯火採集によって行った。また、平成10年以降の種苗出荷実績の整理および操業日誌による漁獲量の把握を行った。

(2) 高津川

平成17年以降の種苗放流実績の整理を行うとともに操業日誌による分布状況調査を行った。

3. 研究結果

(1) 神西湖

① シラスウナギ来遊量調査

神西湖と日本海の接続河川である差海川河口で実施し、平成25年5月～平成26年1月にかけて採捕されなかったが、2月に1尾、3月に6尾採捕された。

② ウナギ種苗出荷実績

神西湖におけるウナギ放流用種苗出荷実績を整理した。採捕は5～9月に行われ、平成10～

22年にかけては300～400kgの水準で推移、平成22年以降減少し、平成24年には100kgを割り込んだ。平成25年には出荷事業を中止したため、出荷量は0kgとなった。

③ 操業日誌による分布状況調査

平成25年6～10月にかけて合計509.7kg、2,395尾のウナギが漁獲された。漁業種類別では、ます網では調査対象とした3統合計で358.7kg、1,201尾漁獲され、1統当たり119.6kg、400.3尾漁獲された。竹筒（7漁業者）では合計151kg、1,194尾漁獲され、1漁業者当たり21.6kg、170.6尾漁獲された。

(2) 高津川

① 高津川におけるウナギ種苗放流実績

放流尾数は平成19年の4,010尾を最高に、以降減少を続け平成25年は440尾にまで低下した。種苗の入手先を見ると平成24年以前は神西湖産の種苗が多くを占めていた。また、種苗放流は中流域を中心に行われていた。

② 操業日誌による分布状況調査

平成25年6～10月にかけて合計773尾漁獲され、1漁業者当たりでは59.5尾であった。一漁具（箭1本、針1本）当たりの漁獲尾数では河口から約20～40kmの中流域で多く、0.7～1.0尾であったが、50～60kmの上流域では0～0.03にまで減少した。一方、漁獲されたウナギの1尾あたりの平均重量は河口から中流にかけて減少し、上流では増加する傾向が見られた。

4. 研究成果

調査で得られた結果は、(独)水産総合研究センターが取りまとめた、平成25年度健全な内水面生態系復元等推進事業のうち「内水面資源生息環境改善手法開発事業」報告書により水産庁に報告された。